

|                    |   |       |                            |
|--------------------|---|-------|----------------------------|
| 講義ユニット名            | 産婦人科  | 所属科目名 | 全身性疾患制御学                   |
| 講義ユニット<br>責任者      | くどう よしき<br>工藤 美樹  | 所属    | 産科婦人科 (内線 5260)            |
|                    |   | メール   | yoshkudo@hiroshima-u.ac.jp |
| 講義ユニット<br>コーディネーター | うらべ さとし<br>占部 智   | 所属    | 産科婦人科 (内線 2821)            |
|                    |   | メール   | surabe@hiroshima-u.ac.jp   |
| 授業方法               | 講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。あるいは配布資料などに沿って説明しながら授業をすすめる。   |       |                            |
| 概要                 | 産科学では女性の一生における大きなイベントである妊娠・出産についての正しい知識を習得し、妊娠・分娩時の異常を学ぶ必要がある。また、婦人科疾患については解剖、内分泌環境、腫瘍性病変等について学んでいく必要がある。講義を通して妊産婦や婦人科疾患の病態、診断、治療法などを理解することを目標とする。  |       |                            |
| 講義ユニットの<br>到達目標    | <p>女性生殖器の発育の過程を説明できる。</p> <p>女性生殖器の形態と機能を説明できる。</p> <p>性周期発現と排卵の機序を説明できる。</p> <p>閉経の過程と疾病リスクの変化を説明できる。</p> <p>乳房の構造と機能を説明できる。</p> <p>成長発達に伴う乳房の変化を説明できる。</p> <p>乳汁分泌に関するホルモンの作用を説明できる。</p> <p>不正性器出血、腔分泌物（帯下）の増量、腔乾燥感、性交痛、乳汁漏出症をきたす疾患を列挙し、その病態を説明できる。</p> <p>月経異常・無月経を説明できる。</p> <p>月経異常の原因と病態生理を説明できる。</p> <p>月経異常をきたす疾患（群）を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>月経異常がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>血中ホルモン（卵巣刺激ホルモン(follicle-stimulating hormone &lt;FSH&gt;)、黄体形成ホルモン(luteinizing hormone &lt;LH&gt;)、プロラクチン、ヒト絨毛性ゴナドトロピン(human chorionic gonadotropin &lt;hCG&gt;)、エストロゲン、プロゲステロン)測定値を評価できる。</p> <p>骨盤内臓器と腫瘍の画像診断（超音波検査、コンピュータ断層撮影&lt;CT&gt;、磁気共鳴画像法&lt;MRI&gt;、子宮卵管造影(hysterosalpingography &lt;HSG&gt;)所見を概説できる。</p> <p>基礎体温の所見を説明できる。</p> <p>腔分泌物の所見を説明できる。</p> <p>内外生殖器の先天異常を説明できる。</p> <p>卵巣機能障害、更年期障害を概説できる。</p> <p>不妊症の系統診断と治療を説明できる。</p> <p>子宮筋腫・子宮腺筋症の症候、診断と治療を概説できる。</p> <p>子宮内膜症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>外陰、腔と骨盤内感染症の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>クラミジア感染症を説明できる。</p> <p>性感染症の原因微生物を説明できる</p> <p>梅毒の症候と診断と治療を説明できる。</p> <p>淋菌感染症の診断と治療を説明できる。</p> <p>性器クラミジア、性器ヘルペス、尖圭コンジローマの診断と治療を説明できる。</p> <p>子宮頸癌・子宮体癌（子宮内膜癌）の予防、症候、病理所見、診断、治療を説明できる。</p> <p>卵巣腫瘍（卵巣癌、卵巣嚢腫）の症候、病理所見、診断、治療を説明できる。</p> <p>絨毛性疾患（胎状奇胎、絨毛癌）の症候、診断、治療を説明できる。</p> <p>妊娠の診断法を説明できる。</p> <p>妊娠に伴う身体的変化を概説できる。</p> <p>胎児・胎盤検査法（超音波検査、分娩監視装置による）の意義を説明できる。</p> <p>羊水検査法の意義と異常所見を説明できる。</p> |       |                            |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>体循環、肺循環と胎児・胎盤循環を説明できる。<br/> 妊娠・分娩・産褥での母体の解剖学的と生理学的変化を説明できる。<br/> 胎児・胎盤系の発達過程での機能・形態的变化を説明できる。<br/> 正常妊娠の経過を説明できる。<br/> 正常分娩の経過を説明できる。<br/> 産褥の過程を説明できる。<br/> 育児に伴う母体の構造的・生理的な変化、精神問題を説明できる。<br/> 母子保健の意義を医学的に説明できる。<br/> 妊娠時の薬物療法の注意点を説明できる。<br/> 主な異常妊娠（流産、切迫流産、子宮外妊娠（異所性妊娠）、妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、胎児発育不全）の病態を説明できる。<br/> 主な異常分娩（早産、微弱陣痛、遷延分娩、回旋異常、前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離、弛緩出血、分娩外傷）の病態を説明できる。<br/> 主な異常産褥（子宮復古不全、産褥熱、乳腺炎）の病態を説明できる。<br/> 産科救急（産科出血、播種性血管内凝固&lt;DIC&gt;）の病態と治療を説明できる。<br/> 主な合併症妊娠（耐糖能異常、甲状腺疾患、血液型不適合妊娠、toxoplasmosis, other agents, rubella, cytomegalovirus, herpes simplex &lt;TORCH&gt;症候群）の病態を説明できる。<br/> 胎児機能不全(non-reassuring fetal status &lt;NRFS&gt;)を説明できる。<br/> 人工妊娠中絶の適応を説明できる。<br/> 帝王切開術の適応を説明できる。</p> |
| 講義日程    | 別紙日程表を参照のこと   |
| 出席の取り扱い | 出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。<br>3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。  |
| 評価項目    | 到達目標の達成度<br>（基本的理解と知識の応用）   |
| 評価法     | 試験（MCQ形式と記述形式の併用にて試験を行う（配点 MCQ 100点）。<br>本試験における合格基準は60点とする。  |
| 推奨参考書   | 【購入を推奨する参考書】<br>標準産科婦人科学 編集：岡井崇／綾部琢哉 医学書院   |